

新世界語学院 2023年度 自己点検・評価

評価について…A：達成、B：ほぼ達成、C：要改善

項目	内容	評価	コメント
1	理念・教育目標		
1.1	設立当初の理念 21世紀を間もなく迎えようとする現在は、すでに「国際化」の時代から「地球化」の時代へと移りつつあるという認識の下、世の中を動かす一番重要な要素である「人」の「地球化」を目指す場として本学院を創設しました。本学院の最大の目的は、入学する優秀な学生が本学院において、日本語のみならず、日本文化・社会・経済・技術等を学ぶことによって、各々の国の「地球化」に貢献し、さらにそのことが日本社会への刺激剤となって、日本の「地球化」に寄与することにあります。狭いビジネスの枠を超えた事業として発展でき、そのことによって世界及び日本がより平和で活力のあるものになってゆけるよう最善の努力を尽くす考えです。	A	設立当時の理念を読み返しても全く色褪せていません。今後もこの理念を大切にしていける所存です。
1.2	教育目標 ①学生全員が希望する学校に進学すること。 ②一人として不法滞在者を出不さないこと。 ③一人として犯罪者を出不さないこと。	A	①卒業生60名のうち、進学希望者56名中56名が進学することができました。 ②は0名でした。 ③は0名でした。
1.3	育成する人材像 日本語及び日本文化を十分に学び理解し、日本社会に積極的に溶け込んでいける人材。	A	開校以来3千人を超える卒業生を輩出してまいりました。中には日本に残り、日本社会に貢献している人も多数おります。また、母国に帰国して、日本との橋渡し役を務めているものも多数おります。また、卒業後の在留状況についても進学先の学校と連携するなどして情報把握に努めるようにしております。
1.4	理念、教育目標が社会の要請に合致していることの確認	A	特に、外国人に対する日本語教育は日本社会の要請に非常に合致していると確信しています。
1.5	理念、教育目標、育成する人材像が教職員及び学生に周知されているかどうか	A	教職員に対しては講師会を定期的に開催し、その都度周知するようにしております。学生に対しては、学生募集段階で募集時期毎に求める人材像を具体的に学生に提示しております。
2	学校運営		
2.1	日本語教育機関の告示基準に適合している。	A	はい、適合しています。
2.2	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	A	今までcovid-19のせいで経営計画が立てにくい状況でしたが、おかげさまで状況も落ち着き、学生もたくさん入学してくれるようになり、教職員に対して講師会等で中長期的な計画を発表し、共有することもできました。
2.3	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営が行われている。	A	法令遵守に加え、入国管理局に提出し認められた通りの学則に乗取り運営が行われています。
2.4	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	A	理事長、校長の打ち合わせにより意思決定が行われ、その決定は正しく組織内で共有されています。共有は打ち合わせやメールの他、社内SNSや社内の情報共有ツール、クラウド型のオンラインストレージなどにより効率的に行われています。
2.5	予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確である。	A	今までcovid-19のせいで経営計画が立てにくい状況でしたが、おかげさまで状況も落ち着き、学生もたくさん入学してくれるようになり、予算に基づき適正なルール則り執行されております。
2.6	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがある。	A	既に加盟・登録している日本語学校ネットワーク、日本語教育振興協会、出入国在留管理庁の情報提供サービスに加え、外部研修などの教務分野での情報共有も継続的に行なっております。また、新たに専任・非常勤講師全ての教員が入っているLINEのオープンチャットを開設し、教員向けの研修情報なども細かに共有できるようになりました。
2.7	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っている。	A	学校のホームページは日本語、中国語、英語、ベトナム語で表記されています。また、パンフレットも同言語版を作成しています。さらに、その都度変わる募集要項についても同言語版を用意し、留学希望者や現地募集代理店に送付を行っております。
2.8	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	A	教務担当、生活指導担当がそれぞれ責任を持って対処する体制を取っています。
2.9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。	A	昨年度の課題でありましたが、学生数が増えることによって教員の数も増え、業務分掌に応じた有機的な組織を形成し機能するようになりました。
3	教育活動の計画		
3.1	理念・教育目標に合致したコースを設定している。	A	理念などと合致したコース編成を行っております。
3.2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	A	普通の進学クラスは長年の実績に基づいたカリキュラムで編成されております。
3.3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベルを設定している。	A	前年に引き続き、日本語教育でも積極的に取り入れられているCEFRのような国際的に認知されている熟達度の枠組みを積極的に取り入れ、従来型の日本語教育に加え、Can-doの精神に則った教材選定やカリキュラムの見直しを絶えず継続する必要があると考えております。
3.4	教育目標に合致した教材を選定している	A	長年の教育活動の中で蓄積した経験や情報により、学習段階に合致した教材選定をしております。また、生活指導についてはオリジナルで作成した専用教材を使用し指導を行っています。
3.5	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。	A	著作権法に対する意識は向上したと思います。
3.6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	A	教務の責任者が内容や方法について一括して作成しているため、学校として教育に統一感があります。各教員が問題なく実施できるように授業予定表の作成を丁寧に行い、指示を細かく記載する事により、共通理解が得られていると思います。
3.7	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	A	コース別で求められる能力、経験を勘案して適切に教員配置をしています。また、専任教員の時間数も告示基準で示されている時間より大幅に少ない時間数とすることによって、さらなる教育の拡充に時間が割けるように工夫しております。
4	教育活動の実施		
4.1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	A	入学選考の際にある程度の日本語力はチェックをしていますが、実際の来日時にプレースメントテストを行い、それに基づき適切なクラス編成を行っています。尚、学生の日本語能力の判定者は専任講師が担当しており、使用しているプレースメントテストも長年使用しているもので適切であると考えています。

4.2	教員に対して、担当する学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。	A	新学期の開始と同時に講師会を開催することにより、必要な情報を教員に伝達しています。授業開始後の情報共有については、主にメールを使用して行い、模擬試験の点数などについても全教員が把握できるようにしております。
4.3	開示されたシラバスによって授業を行っている。	A	2020年度から教務の責任者がシラバスに基づいたカリキュラム、授業予定を作成するようにしました。シラバスをはじめ学習内容については、ホームページ等で公開されている内容の通りです。
4.4	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。	A	授業記録については、授業進度だけでなく学生の様子や学習成果についても記述し全クラスの情報が一覧で見られるようにしてあります。出席簿については、今までは月ごとに入力していたのを日々入力するように変更し、より迅速に学生の出席率の変化がわかるように改善しました。
4.5	理解度・到着度の確認が実施期間中に適切に行っている。	A	今までよりも更に定期試験や模擬試験の回数を増やし、学習効果測定がより精密に行えるように改善しました。1年間で4回の定期試験と約10回の外部試験の模擬試験を行います。
4.6	学生の自己評価を把握している。	A	年4回実施している教員・授業アンケート評価の中に、学習者自身が3ヶ月の学習を振り返ることができるような設問もいれ、改善を継続的に図っています。今後は更なる充実のために、学生からあつまったデータの活用方法を模索していきたいです。
4.7	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている。	A	新型コロナウイルス感染症の影響で入国が遅れたりということもありましたが、専任教員を支援担当者として補講などを行う事により適切な指導、支援が行えました。
4.8	特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。	B	現状、特定の支援を必要とする学習者の在籍がないのですが、今後必要となった時すぐに助言を求められる専門家の候補はなかなかありません。少しずつではありますが、学外にもネットワークを構築して相談できる専門家と知り合いになっていっています。
5	成績判定と授業評価		
5.1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。また判定基準と方法を開示している。	A	学生に対して教務オリエンテーションを実施することにより、成績の判定方法や評価について説明することができています。
5.2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	A	成績通知表を作成し、学生本人だけでなく母国の保護者や仲介機関にも送付するように改善を続けております。
5.3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	A	試験の成績等の客観的評価と担当教師の主観的評価を組み合わせることで成績を算出する方法に加え、今年度は集めたデータを年次総括することにより、より評価の妥当性を検討しようという意識が高まったと思います。しかし、まだまだデータが不足しているため妥当性の検証は今後も継続して行う必要があります。
5.4	授業評価を定期的に実施している。	A	授業評価は今までに加え回数を増やしました。また、その評価プロセス及び結果についても記録をするようにし、前年度より大幅に改善することができました。
5.5	評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。	A	5.3と同じく、今までと比べ大幅に改善をしましたが、今度もデータ収集を継続して行いその妥当性を検証する必要があります。
5.6	学生による授業評価を定期的に実施している。	A	今まで行っていなかった学生により授業評価を導入しました。オンライン無記名で行うことにより、学生からの本当の評価を引き出すように工夫しております。
5.7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力の向上等の取り組みに反映されている。	B	学生や教員から収集した評価をどのように教育へと落とし込むかは今後の課題だと思います。
6	教育活動を担う教職員		
6.1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	B	以前の課題であった組織図、職務分掌規程又は職務分掌表などの文章を作成することはできませんでした。しかし、より具体的な職務について規定しきれていない部分があるので、組織運営を行いながらより改良を加えたいと思います。
6.2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	B	文書では明示していませんので、今後の課題とします。
6.3	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している。	A	はい、それらは明文化しております。
6.4	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取り組みをしている。	A	昨年度までの課題部分でしたが、取り組むことができました。学校の規模も拡充し、教員の充実とともに学内研修の充実度も上がっていると感じます。
6.5	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている。	B	教員として教授面において求められる部分については研修を行っておりますが、ハラスメント等のコンプライアンスに関わる部分については十分に行えていません。外部の研修コンテンツなどの使用も検討しながら改善を図りたいと思います。
6.6	教員及び職員の評価を適切に行っている。	A	昨年度までの課題でしたが、毎年適切に行っているだけでなく、教職員に対しても結果を開示するように改善ができました。
7	教育成果		
7.1	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理している。	A	はい、適切に管理しています。卒業後3年間は保管しています。
7.2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	A	昨年度、出入国在留管理局の指摘を受け一部の学則を改定いたしました。今年度は更にそれを見直し改訂案を作成しています。
7.3	日本留学試験・日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	A	はい、ちゃんと把握しており、その結果も教員にフィードバックされています。
7.4	卒業または修了後の進路を把握している。	A	はい、ちゃんと把握しています。
7.5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	A	卒業生の進学先の高等教育機関に対し電話やFAXで追跡調査を行い、在留期間更新や在学状況について何うように改善しました。
8	学生支援		
8.1	学生支援計画を策定し、支援態勢を整備している。	B	学生の支援はきちんと行っておりますが、書面にて計画書は作成しておりません。今後の課題とします。
8.2	生活指導責任者が特定され、それぞれの責任と権限を明確化している。また、これらの者を学生及び教職員に周知している。	A	はい、そのとおりしております。
8.3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている。	A	毎月のオリエンテーションと年に6回程度の課外授業も計画しております。
8.4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的に実施している。	A	同上。
8.5	住居支援を行っている。	A	複数の寮を確保しており、管理人とは綿密に連絡を取り合っており管理しています。
8.6	アルバイトに関する指導及び支援を行っている。	A	アルバイト調査を毎月オンラインで実施できるようにシステムを運用しております。
8.7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている。	A	毎月のオリエンテーションで健康、衛生に関する指導も行います。
8.8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険加入している。	A	事務の方で学生全員の加入を確認しています。国民健康保険以外の民間の保険にも学校として加入しています。
8.9	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。	B	学生の対応はきちんと行っておりますが、書面にてマニュアルは作成しておりません。今後の課題とします。

8.10	交通事故等の相談態勢を整備している。	B	学生の対応はきちんと行っておりますが、書面にてマニュアルは作成しておりません。今後の課題とします。
8.11	危機管理体制を整備している。	B	昨年度までの課題でしたが、防災関係の取り組みについては充実してきました。ただ、その他の事態を想定した危機対応のマニュアルは作成しておりませんので今後の課題とします。
8.12	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的に実施している。	B	備品は必要数揃えており、避難訓練の実施を行いました。火災、地震、台風等の災害発生時のマニュアルは作成は今後の課題として継続して行わなければなりません。
8.13	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知している。	B	オリエンテーションにて学生に指導を行いました。マニュアルの作成は課題です。
9	進路に関する支援		
9.1	進路指導担当者を特定している。	A	はい、特定しています。
9.2	学生の希望する進路を把握している。	A	はい、きちんと把握しています。
9.3	進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	A	はい、そのようになっています。
9.4	入学時からの一貫した進路指導を行っている。	B	昨年の課題であった進路指導記録の作成とまた1年次からの継続的な進路指導は実施できました。しかし、より一層の内容の充実が必要だと思われます。
10	入国・在留関係に関する指導及び支援		
10.1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	A	はい、その通りです。
10.2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている。	A	全教員がしかるべき研修を受けることができました。今後、社内共有に関してより効果的な方法を策定し、より一層の充実を図りたいと思います。
10.3	入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。	A	はい、配置しています。
10.4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	B	定期的に行っておりますが、計画書の作成や実施記録は完備していません。今後の課題とします。
10.5	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	A	入国管理局からの通知を熟読しその後重要な点は、ミーティングにて内容の理解を確認したり、不明点は質問して確認しました。
10.6	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	A	個別指導を行いました。記録もすべてとっております。
10.7	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。	B	継続的に行っておりますが、計画書の作成や全体への指導記録は完璧とはいえません。今後の課題とします。
10.8	過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない。	B	昨年度まで課題となっていた項目ですが、今年度は改善したと思います。しかしながら、貰い事故のような事案もあつたりしたので、より一層指導強化していきたいと思います。
11	教育環境		
11.1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うに必要な遮音性が確保されている。	A	はい、確保されています。
11.2	授業時間内に自習できる部屋を確保している。	A	自習室・図書室は設置しており、PCを自由に使える環境を作りました。
11.3	教育内容及び学生に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能で得である。	A	図書は整備されていますが、学生が利用可能なパソコンは整備しておりません。今後の課題とします。
11.4	視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	A	昨年度から大幅に改善しました。現在、ひとクラス分のPCと3クラス分のタブレットを設備として備えております。また、すべてのクラスにおいてPPTなどを用いた授業を実施しております。
11.5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	A	はい、確保しています。
11.6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。	A	はい、確保しています。
11.7	法令上必要な設備等を備えている。	A	はい、確保しています。
11.8	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。	A	はい、確保しています。
11.9	バリアフリー対策を施している。	A	事務所移転により、車椅子の方でも教室まで行けるようになりました。
12	入学者の募集と選考		
12.1	理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を定め、年間募集計画を策定している。	A	はい、その通りに行っております。
12.2	機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。	A	はい、その通りに行っております。
12.3	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	A	ホームページ、学校パンフレットを日本語、中国語、英語、ベトナム語で作成しています。
12.4	海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握している。	A	はい、その通りに行っております。
12.5	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	A	はい、その通りに行っております。
12.6	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、必ず学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	A	はい、その通りに行っております。
12.7	入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者のニーズと合致することを確認している。	A	はい、その通りに行っております。
12.8	入学検定料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	A	はい、その通りに行っております。
12.9	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。	A	はい、その通りに行っております。公開は募集要項、ホームページにて行っております。
13	財務		
13.1	財務状況は、中長期的に安定している。	A	無事に増員も許可され、さらに増員許可後すぐに定員の80%以上の在籍者を確保することができています。募集は非常に好調で、募集に関するコストも意識できているので、財務状況はこれからより安定すると思います。
13.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	A	これまでの30年間にわたる健全経営が何よりの証拠です。
13.3	適正な会計監査が実施されている。	A	当社は株式市場に上場していませんので会計監査を受ける必要はありませんが、会計士の方などの協力を得ながら適切な会計を行っております。
14	法令順守		
14.1	法令順守に関する担当者を特定している。	A	学校長が担当しています。
14.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。	B	取り組みは必要に応じて行っておりますが、その記録は取っていません。今後の課題とします。
14.3	個人情報保護のための対策を取っている。	B	各自が意識して行っておりますが、学校の方針として対策をマニュアル化する必要があります。
14.4	入国管理局、関係官庁、日振協等への届出、報告を遅滞なく行っている。	A	概ね遅滞なく行っております。
15	地域貢献・社会貢献		

15.1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	B	昨年度まで課題となっていた項目ですが、地域のNPOや大学生徒の交流の機会を通じて、留学生や日本語学校の理解促進に貢献することができました。
15.2	学生ボランティア活動への支援を行っている。	B	昨年度までは何もできていなかった項目ですが、今年度はボランティア活動の情報を案内することができました。
15.3	公開講座等を実施している。	C	これまで行っていません。今後の課題とします。